

専 門 教 養
令和元年 7 月
60 分

受 験 教 科 等
特別支援学校 <b>自立活動</b>

## 注 意

- 1 指示があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 2 全て係員の指示に従って、静粛に受験してください。
- 3 机上には、受験票、筆記用具、時計以外のものを出してはいけません。
- 4 問題の音読等、他の受験者の迷惑になるような行為、携帯電話の使用及び不正行為をしてはいけません。
- 5 解答時間は60分です。途中退出はできません。
- 6 問題冊子のページ数は、17ページです。はじめにページ数を確かめてください。
- 7 解答用紙に**必要事項の記入やマークがない場合や誤っている場合には、解答は全て無効**となります。解答用紙の【1】の欄には、**受験番号を記入し、受験番号に対応する数字をマーク**してください。【2】の欄には、**氏名を記入**してください。ただし、【3】の選択問題を表す欄のマークは**不要**です。
- 8 問題冊子の余白等は、適宜使用しても構いませんが、どのページも切り離してはいけません。
- 9 問題文中の「学習指導要領」は、特に指示がある場合を除いて、平成29年又は平成30年告示の「学習指導要領」を表しています。
- 10 問題の内容についての質問には一切応じません。

## 解答上の注意

- 1 解答は、問題文や解答用紙の注意事項に従って、解答欄にマークしてください。問題には、選択肢から選び解答する場合や、数字又は符号（-）を入れて問題文を完成させて解答する場合などがあり、解答方法が複数ある場合とどれか一つのみの場合とがあります。
- 2 「解答番号は 

1
---

。」と表示のある問に対して、3と解答する場合には、次の（例1）のように解答番号 

1
---

 の解答欄の③にマークしてください。

（例1）

解答番号	解答欄
1	① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖

解答上の注意の続きを、問題冊子の裏表紙に記載してあります。問題冊子を裏返して必ず読んでください。

3 問題文中の 、 などの  には、数字又は符号（-）が入ります。次の(1)~(4)の方法でマークしてください。

(1) 、、、……の一つ一つは、それぞれ1~9、0の数字又は符号（-）のいずれか一つに対応します。それらを 、、、……で示された解答欄にマークしてください。

例えば、 に -84 と解答する場合には、次の(例2)のようにマークします。

(例2)

解答番号	解答欄
<input type="text" value="2"/>	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ●
<input type="text" value="3"/>	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ● ⑨ ⑩ ⊖
<input type="text" value="4"/>	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖

なお、同一の問題文中に 、 などが2度以上現れる場合、原則として、2度目以降は、、 のように細字で表記します。

(2) 分数形で解答する場合は、符号は分子に付け、分母に付けてはいけません。また、分数は既約分数で答えてください。

例えば、 $\frac{\text{5} \text{6}}{\text{7}}$  に  $-\frac{4}{5}$  と解答する場合には、 $\frac{-4}{5}$  として、次の(例3)のように

マークします。

(例3)

解答番号	解答欄
<input type="text" value="5"/>	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ●
<input type="text" value="6"/>	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖
<input type="text" value="7"/>	① ② ③ ④ ● ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖

(3) 小数の形で解答する場合は、特に指示されていなければ、指定された桁数の一つ下の桁を四捨五入して答えてください。また、必要に応じて、指定された桁まで⑩にマークしてください。

例えば、 に 2.6 と解答する場合には、2.60 として答えてください。

(4) 根号を含む形で解答する場合は、根号の中に現れる自然数が最小となる形で答えてください。

4 「ただし、選んだ数字の小さい順にマークすること。解答番号は 、、。」と表示のある間に対して、**2**と**5**と**8**と解答する場合には、次の(例4)のように「**2**、**5**、**8**」の順にマークします。

このとき、「**2**、**5**、**8**」以外の「**5**、**2**、**8**」や「**8**、**2**、**5**」などの順にマークした場合には、不正解となります。

(例4)

解答番号	解答欄
<input type="text" value="11"/>	① ● ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖
<input type="text" value="12"/>	① ② ③ ④ ● ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖
<input type="text" value="13"/>	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ● ⑨ ⑩ ⊖

**1** 特別支援教育に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 次の記述**ア**～**エ**のうち、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（平成28年4月1日施行）に照らして正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の**1**～**6**のうちではどれか。解答番号は  。

**ア** この法律は、障害者基本法の基本的な理念にのっとり、障害を理由とする差別の解消を推進し、全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に資することを目的としている。

**イ** 障害者とは、身体障害、知的障害、精神障害（発達障害を含む。）その他の心身の機能の障害がある者であって、その障害に起因する困難により、継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にある者であり、社会的障壁を含まないものをいう。

**ウ** 行政機関等及び事業者は、社会的障壁の除去の実施についての必要かつ合理的な配慮を的確に行うため、施設の構造の改善及び設備の整備に努めるよう規定されているが、職員に対する研修は規定されていない。

**エ** 行政機関等及び事業者は、その事務又は事業を行うに当たり、障害を理由として障害者でない者と不当な差別的取扱いをすることにより、障害者の権利利益を侵害してはならないとされている。

- 1 ア・イ
- 2 ア・ウ
- 3 ア・エ
- 4 イ・ウ
- 5 イ・エ
- 6 ウ・エ

[問 2] 学校教育における合理的配慮に関する記述**ア**～**エ**のうち、「特別支援教育の在り方に関する特別委員会報告1」（中央教育審議会初等中等教育分科会 平成24年7月13日）に照らして正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の**1**～**6**のうちではどれか。解答番号は  。

**ア** 合理的配慮とは、障害のある子供が、他の子供と平等に教育を受ける権利を享有・行使することを確保するために、学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、学校の設置者及び学校に対して、体制面、財政面において、均衡を失した又は過度の負担を課さないものである。

**イ** 障害のある子供に対する支援については、法令に基づき又は財政措置により、国、都道府県及び市町村は、教育環境の整備をそれぞれ行う。これらの合理的配慮の基礎となる「基礎的環境整備」を基に、学校の設置者及び学校は、各学校において、障害のある子供に対し、法令に基づいて一律の環境整備を行う。

**ウ** 合理的配慮は、一人一人の障害による困難を軽減するために提供されるものであるため、学校の設置者及び学校は、合理的配慮の観点を踏まえ、本人と保護者の意向を聞き取る前に、提供可能な合理的配慮を考えて提供することが求められ、その内容を個別の教育支援計画に明記する。

**エ** 合理的配慮は、その障害のある子供が十分な教育が受けられるために提供できているかという観点から評価することが重要であり、それについても研究していくことが重要である。例えば、個別の教育支援計画、個別の指導計画について、各学校において計画に基づき実行した結果を評価して定期的に見直すなど、PDCAサイクルを確立させていくことが重要である。

1 ア・イ

2 ア・ウ

3 ア・エ

4 イ・ウ

5 イ・エ

6 ウ・エ

[問 3] 特別支援教育に係る教育課程についての記述ア～エのうち、正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の 1～6 のうちではどれか。解答番号は 。

**ア** 特別支援学級において特別の教育課程を編成する場合、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るため、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領に示す自立活動を取り入れることとする。

**イ** 特別支援学級においては、特に必要がある場合は、特別の教育課程を編成することができるため、指導する内容は、指導に当たる教員の裁量によって特別に決めて指導することができる。

**ウ** 知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の中学部の教育課程は、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭及び外国語の各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間、特別活動並びに自立活動によって編成する。

**エ** 特別支援学校の小学部において、知的障害者である児童を教育する場合、特に必要のあるときは、各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、特別活動及び自立活動の全部又は一部について、合わせて授業を行うことができる。

1 ア・イ

2 ア・ウ

3 ア・エ

4 イ・ウ

5 イ・エ

6 ウ・エ

**2**

学習指導要領に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 特別支援学校高等部学習指導要領（平成21年3月告示）の「総則」の「教育課程の編成」の「職業教育に関して配慮すべき事項」に関する記述**ア**～**エ**のうち、正しいものを選んで組合せとして適切なものは、下の**1**～**6**のうちのどれか。解答番号は  。

**ア** 職業に関する各教科・科目について、実験・実習に相当する授業時数は105単位時間を標準とする。

**イ** 生徒の生活年齢を考慮し、職業に関する各教科・科目の履修を容易にするため特別な配慮が必要な場合には、各分野における基礎的又は中核的な科目を重点的に選択する。

**ウ** キャリア教育を推進するために、地域や学校の実態、生徒の特性、進路等を考慮し、地域及び産業界や労働等の業務を行う関係機関との連携を図る。

**エ** 普通科においては、地域や学校の実態、生徒の特性、進路等を考慮し、必要に応じて、適切な職業に関する各教科・科目の履修の機会の確保について配慮する。

1 **ア**・**イ**

2 **ア**・**ウ**

3 **ア**・**エ**

4 **イ**・**ウ**

5 **イ**・**エ**

6 **ウ**・**エ**

[問 2] 次の記述**ア**～**エ**のうち、特別支援学校高等部学習指導要領（平成21年3月告示）の「総則」の「教育課程の編成」の「教育課程の実施等に当たって配慮すべき事項」に示されているものとして適切なものには○を、適切でないものには⊖をそれぞれマークせよ。解答番号は**ア**が  、**イ**が  、**ウ**が  、**エ**が  。

**ア** 海外から帰国した生徒などについては、学校生活への適応を図るとともに、日本での生活に慣れるように体験学習を行うなど適切な指導を行うこと。

**イ** 学校の教育活動全体を通じて、個に応じた指導を充実するため、個別の指導計画に基づき指導方法や指導体制の工夫改善に努めること。

**ウ** 現在及び将来の生き方を考え行動する態度や能力を育成することができるよう、学校の教育活動全体を通じてガイダンス機能の充実を図ること。

**エ** 各教科・科目等の指導に当たっては、生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるようにすること。

3

次の事例を読み、下の各問に答えよ。

生徒Aは、知的障害特別支援学校中学部に在籍する自閉症のある生徒である。

生徒Aの様子

- ・ 聴覚から情報を捉えることは苦手であるものの、視覚からの情報を理解することが得意である。
- ・ 他者の様子に関心があり、進んでコミュニケーションを取ろうとする。
- ・ 気持ちが落ち着かなくなったときに、自らの行動を抑制することが難しく、他者に対して荒々しい行動に及んでしまうことがある。
- ・ 困ったことに直面したときに、他者に援助を求める方法が身に付いていない。
- ・ 険しい表情や口調で話してしまうことが多く、相手に動揺を与えてしまうことがある。
- ・ 感情などを言葉にして話すことが難しく、相手に意思が伝わらないことが多い。
- ・ 一方的に話してしまうことが多く、相手の話を聞くのが苦手なため、会話が成立しにくい。

(「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)(平成30年3月)」から作成)

[問 1] 下線部に関連して、自閉症のある児童・生徒の障害の特性を踏まえた指導に関する記述として**適切でないもの**は、次の1～4のうちのどれか。解答番号は  。

- 1 他者との関わりをもとうとするが、その方法が十分に身に付いていない児童・生徒に対して、はじめから多くの教師と様々なやりとりを経験するようにする。
- 2 言葉でのコミュニケーションが困難な児童・生徒に対して、話し言葉を補うためにタブレット型端末等を活用して要求を伝えられるようにする。
- 3 音に過敏に反応する児童・生徒に対して、苦手な音がして落ち着かなくなりそうなときにイヤーマフを自分で着用して音量を調節できるようにする。
- 4 身体を前後に動かして自己刺激を過剰に得ようとしている児童・生徒に対して、ブランコ遊びなどの他の適切な活動に置き換えて、同じような感覚を得られるようにする。

[問 2] 次の記述**ア**～**エ**のうち、自閉症のある児童・生徒の障害の特性や「生徒Aの様子」を踏まえた生徒Aへの指導として正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の**1**～**6**のうちではどれか。解答番号は 

10
----

。

**ア** 他者に対して荒々しい行動をしてしまったときに、落ち着くことのできる小部屋を用意し、慣れた別の活動に取り組み、気持ちを落ち着かせるようにする。

**イ** 相手の立場に合わせた言葉遣いや場に応じた声の大きさなどを、実際の生活場面とは切り離し、プリントを使って指導を行う。

**ウ** 絵カードを使って表情から相手の意図を推測する学習を行い、周囲の状況や他者の感情に配慮した伝え方ができるようにする。

**エ** 「もうちょっと優しい言い方なら大丈夫だよ」と、意味内容に幅のある表現を用いて状況に応じた話し方を口頭で伝える。

**1** ア・イ

**2** ア・ウ

**3** ア・エ

**4** イ・ウ

**5** イ・エ

**6** ウ・エ



[問 3] 「生徒Aの様子」を踏まえ、個別指導計画の自立活動の目標を「一方的に話すことを調整しながら、伝えたいことを整理して話す」と設定した。この目標を達成するための具体的な指導内容として、次の記述ア～エのうち、正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の1～6のうちではどれか。解答番号は 11。

**ア** 相手に伝えなければならない事柄を、いつ、どこで、どうしたいかなどの項目を示した資料を見ながら順番に話す機会を設定する。

**イ** 予定されているスケジュールや予想される事態や状況を伝えたり、事前に体験できる機会を設定したりすることで見通しをもてるようにする。

**ウ** 日常の会話の様子を動画で撮影し、省みるようにすることで、相手の話を聞きながら話したり、穏やかな口調や表情で相手に接したりするよう意識させる。

**エ** 話し言葉ではなく、メモ帳やタブレット型端末等を活用して、文字のみで自分の話したいことを相手に伝えるようにする。

1 ア・イ

2 ア・ウ

3 ア・エ

4 イ・ウ

5 イ・エ

6 ウ・エ

4

障害に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 次の記述ア～エは、視覚障害者である児童・生徒の視覚障害の状態に関するものである。正しいものを選んだ組合せとして適切なものは、下の1～6のうちのどれか。解答番号は  。

- ア** 視覚障害とは、視機能の永続的な低下により、学習や生活に支障がある状態をいう。片眼だけ視機能の低下がみられる場合も、遠近感覚がないなどの不自由があるため、視覚障害である。
- イ** 視力測定はランドルト環を視標とした万国式試視力表を用いる。0.1の視標が5 mの距離から正解できない場合は、それよりも近い距離で測定する。例えば、1 mの距離で0.1の視標が正解できた場合の視力は、0.02である。
- ウ** 最小可読視標とは、遠見視力表を用い、一番見やすい距離まで目を近づけてどこまで視標を読み取ることができるかで表す。例えば、「最小可読視標：0.3/5 cm」は、5 cmまで近づければ、0.3の視標が読み取れることである。
- エ** 0.01より低い視力は数値で表せないが、明暗も分からない状態を「光覚なし」、明るい暗いかが分かる状態を「光覚（弁）」、眼前で動かした手の動きが分かる状態を「手動（弁）」、眼前の指の数が分かる状態を「指数（弁）」という。

- 1 ア・イ
- 2 ア・ウ
- 3 ア・エ
- 4 イ・ウ
- 5 イ・エ
- 6 ウ・エ

[問 2] 聴覚障害者である児童・生徒に対する指導上の配慮事項に関する記述**ア**～**エ**のうち、特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）（平成30年3月）に照らして正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の**1**～**6**のうちではどれか。解答番号は  。

**ア** 言葉の意味を理解したり、それによつて的確な言語概念を形成したり、その指導の過程において言語による思考力を高めたりするためには、具体的経験をいかに言葉で表現し理解できるようにするかが極めて大切なことである。

**イ** 読書の指導に当たっては、児童・生徒がどのような読み方をしているか、果たして読んでいる内容が理解されているかなどの観点から質問などをすることは、児童・生徒の意欲をそぐことになるため、避けなければならない。

**ウ** 各教科の指導においては、話し合い活動を中心に授業が展開され、そのことを通して、学習内容の理解が図られることから、意思の相互伝達が円滑かつ的確に行われ、それが全体として一層活発化されることが特に望まれる。

**エ** 児童・生徒が「分かる」ことに支えられて、主体的に学習が進められるよう発展的・応用的な事項に重点を置いたり、興味・関心のある事項を優先的に取り上げたりするなど、工夫して指導するよう努めることが大切である。

- 1 ア・イ
- 2 ア・ウ
- 3 ア・エ
- 4 イ・ウ
- 5 イ・エ
- 6 ウ・エ

[問 3] 肢体不自由特別支援学校における自立活動の指導に関する記述として最も適切なものは、次の 1～5 のうちではどれか。解答番号は 。

- 1 自立活動の指導を行うためには、特別支援学校自立活動教諭の教員免許状を所有していることが必要である。
- 2 学級担任の教員は、自立活動の指導は自立活動の担当者に全てを任せて、教科等の指導に専念すればよい。
- 3 自立活動の指導は、自立活動の時間を設けてその時間だけ行えばよく、教科等の指導では自立活動の指導を行う必要はない。
- 4 自立活動の指導は、指導目標を数値化してその達成状況に応じて観点別評価を行い、数値による評定を行う。
- 5 障害の状態により、必要に応じて専門の医師やその他の専門家の指導・助言を求めて適切な指導を行う。

[問 4] 次の記述ア～エのうち、知的障害者である児童・生徒の学習上の特性を踏まえた指導に関するものとして適切なものには①を、適切でないものには⊖をそれぞれマークせよ。解答番号はアが 、イが 、ウが 、エが 。

- ア 自発的な活動を大切にし、主体的な活動を促すようにしながら、課題を解決しようとする思考力、判断力、表現力等を育むよう指導する。
- イ 一人一人の児童・生徒の知的障害の状態や経験、興味・関心などを踏まえるとともに、可能な限り実際の場面に即した状況で指導する。
- ウ 将来の社会参加と自立のため、補助具等の学習環境は、発達の段階よりも生活年齢に即して設定し、自力で取り組む力につながるよう指導する。
- エ 学校で学習した内容が、家庭生活を含む日常生活の様々な場面で、学習した内容の深化や、生活の向上につながるよう指導する。

[問 5] 病弱者である児童・生徒に対する指導に関する記述として最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は  。

- 1 糖尿病の児童・生徒は、医療機関が主体となり、徹底した健康管理を行うため、学校では、児童・生徒が病状を気にしないように全ての活動に参加させる必要がある。
- 2 白血病の児童・生徒は、治療計画によっては、入院と退院を繰り返すことがあるので、退院時にはすぐに学校に登校し、指導が再開できるようにする必要がある。
- 3 心身症の児童・生徒は、心理的に緊張しやすく、不安になりやすい傾向があるが、病気の原因を把握しつつ、様々な集団に積極的に参加させる必要がある。
- 4 心臓疾患の児童・生徒は、運動制限の範囲を超えて身体を動かして、病状が悪化することがあるので、病状や体調に応じて生活を自己管理できるようにする必要がある。

**5** 聴覚障害及び言語障害に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 次の記述は、乳幼児聴力検査法について述べたものである。空欄  に当てはまる検査法の名称を **ア～ウ** から、その検査法の説明として正しいものを A・B から選んだ組合せとして適切なものは、下の **1～6** のうちのどれか。解答番号は  。

1～2歳台では、大脳皮質の活動の発達に伴った聴性行動反応閾値が30dB近辺まで下降してくるので、 が可能になる。

(「教育支援資料～障害のある子供の就学手続と早期からの一貫した支援の充実～」(文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 平成25年10月) から作成)

- ア** BOA (聴性行動反応聴力検査)
- イ** ABR (聴性脳幹反応検査)
- ウ** COR (条件詮索反応聴力検査)

- A 音源を探してそちらの方向を見るという音源定位反応を利用した検査である。左右に設置した2方向のスピーカーを用いて検査音を提示し、ライトなどの視覚強化刺激を使って検査を行う。
- B 検査音として、楽器、音の出る玩具、音響発生装置の震音等を使用する。音を対象児に見えない位置から提示し、音源の方に顔を向ける、動作を止める、表情を変える、などの反応の有無により聞こえの程度を評価する。

- 1 **ア**－A
- 2 **ア**－B
- 3 **イ**－A
- 4 **イ**－B
- 5 **ウ**－A
- 6 **ウ**－B

[問 2] 次の記述のうち、カ行音に関する記述として適切なものは、A群の1～4のうちのどれか。また、カ行音の指導方法の例に関する記述として最も適切なものは、B群の1～4のうちではどれか。解答番号はA群が  、B群が  。

【A群】

- 1 軟口蓋を構音点とする無声破裂音である。
- 2 硬口蓋を構音点とする無声破裂音である。
- 3 歯茎を構音点とする無声破擦音である。
- 4 歯裏を構音点とする無声摩擦音である。

【B群】

- 1 ストローの先を舌尖と上歯茎の間に挟んだまま強く息を出させることにより、歯茎と前舌の狭い隙間から息を出せるようにする。
- 2 手のひらに息を当てるなどの方法で確認させながら、舌尖を上歯茎の裏に付けて閉鎖を作り、その舌尖を離しながら勢いよく息を出すことができるようにする。
- 3 上を向いて口を開けさせ、ストローなどで水を口の奥に入れてうがいをさせる。水の量を減らしていき、水がなくても奥舌の閉鎖から息を出すことができるようにする。
- 4 唾を前舌と上歯茎の間にためておき、半紙などに唾を飛ばすことにより、息の出し方を習得させる。

[問 3] 聴覚障害のある児童・生徒に対して行うア～エの自立活動の指導内容の具体例や留意点として、特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月）に照らして最も適切なものは、下の1～6のうちではどれか、それぞれ答えよ。解答番号はアが 、イが 、ウが 、エが 。

ア 保有する感覚の活用に関すること。

イ 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。

ウ 言語の受容と表出に関すること。

エ 言語の形成と活用に関すること。

- 1 身の回りの音を聞き取り、様子や言葉を理解する場合には、視覚や嗅覚などの感覚も総合的に活用する指導が必要である。その際には、情報を的確に収集するとともに、様々な感覚をいかに活用するかについても考えさせることが大切である。
- 2 聴覚活用に加え、手話や筆談など、他者とコミュニケーションを図るための様々な方法があることを理解し、その中で自分が分かりやすいコミュニケーションの方法を選択できるようになることが大切である。
- 3 視覚を活用した情報収集の方法としては、手話や指文字、キュード・スピーチ、口形、人工内耳、読話などがあり、それぞれの特徴や機能を理解していくことが重要である。
- 4 体験した出来事を文章（5W1H）で表現するために、まず手話で体験した出来事を表現し、その内容を日本語に置き換えながら文章を書くなど、手話を活用した日本語の指導も考えられる。
- 5 場所や場面に応じて、磁気ループを用いた集団補聴システム、FM電波や赤外線を用いた集団補聴システム又はFM補聴器等の機器の特徴に応じた活用ができるようにすることが大切である。
- 6 音声だけでなく身振りを状況に応じて活用し、さらに、手話・指文字や文字等を活用して、児童・生徒が主体的に自分の意思を表出できるような機会を設けることが大切である。



6

肢体不自由に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 肢体不自由者である児童・生徒を対象に摂食指導を行う際の誤嚥を防止するための姿勢の取り方について最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は  。

- 1 飲み込むときに顎が上がるように、下顎を介助者の指で持ち上げて保持する。
- 2 常時、臥位で嚥下する力が育っていない児童・生徒の体幹を45度～90度の間で起こす。
- 3 捕食するときに取り込みやすいように頭を後方に反らせる。
- 4 リラックスした状態を作り、できるだけ身体の各部分を正中位にする。

[問 2] 次の文章は、肢体不自由者である生徒に関するものである。この生徒の学習支援に関する記述ア～エのうち、正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の1～6のうちではどれか。解答番号は  。

生徒Aはウエルドニッヒホフマン症で幼い頃から筋力が弱く、自力で体を支えることができないために、リクライニングさせた車椅子又はベッドの上に乗る、横向きの姿勢で学習をしている。かろうじて鉛筆を持って筆記することはできるが、筆圧が低く上肢が動く範囲も狭いため、常時介助を必要としている。

(「教育の情報化に関する手引」(文部科学省 平成22年10月) から作成)

- ア マウスの操作を容易にするために、大型のマウスとマウスパッドを用いた。  
イ 文字を読みやすくするために、文字が拡大された拡大教科書を用いた。  
ウ 植物の観察を顕微鏡で行うために、モニタに接続できる電子顕微鏡を用いた。  
エ ノート代わりに授業を記録するために、ノート型のコンピュータを用いた。

- 1 ア・イ
- 2 ア・ウ
- 3 ア・エ
- 4 イ・ウ
- 5 イ・エ
- 6 ウ・エ

**7** 自立活動に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 次の記述**ア**～**エ**は、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の「自立活動」の「内容」に示されているものである。**ア**～**エ**に当てはまる区分として適切なものは、下の**1**～**6**のうちのどれか、それぞれ選び答えよ。解答番号は**ア**が 、**イ**が 、**ウ**が 、**エ**が 。

**ア** 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。

**イ** 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。

**ウ** 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。

**エ** 自己の理解と行動の調整に関すること。

- 1 健康の保持
- 2 心理的な安定
- 3 人間関係の形成
- 4 環境の把握
- 5 身体の動き
- 6 コミュニケーション

[問 2] 自立活動の指導に関する記述として正しいものを選んだ組合せとして最も適切なものは、下の 1～6 のうちではどれか。解答番号は  。

- ア 視覚障害のある児童・生徒の場合、発達の段階に応じて、自己の適切な聞こえの状態等、保有する視機能以外の機能の十分な理解を図ることが必要である。その上で、視機能以外の機能を維持するための管理を適切に行うことができるように指導する。
- イ 選択性かん黙のある児童・生徒の場合、家庭などでは支障なく会話できるが、特定の場所や状況では会話ができないことがある。こうした場合は、話そうとすれば話せる状態であるので、本人から積極的に他者とのやりとりができるような場面を設定していく。
- ウ 運動・動作が極めて困難な児童・生徒の場合、日常生活に必要な基本動作のほとんどを援助に頼っている場合が多い。このような児童・生徒の場合には、援助を受けやすい姿勢や手足の動かし方を身に付けることを目標として指導を行う。
- エ 言語発達に遅れのある児童・生徒の場合、自分の考えを的確に言葉にできないことや質問に的確に答えられないことなどがある。そのため、児童・生徒の興味・関心に応じた教材を活用し、語彙を増やしたり言葉のやりとりを楽しんだりする指導が必要である。

- 1 ア・イ
- 2 ア・ウ
- 3 ア・エ
- 4 イ・ウ
- 5 イ・エ
- 6 ウ・エ

## 31 (32採用) 【 特別支援学校 自立活動 】

問題番号			解答番号	正答1	正答2	正答3	配点	備考
大問番号	小問番号							
1	1		1	3			3	
		2	2	3			3	
		3	3	3			3	
2	1		4	6			3	
		2	ア	5	-		1	
			イ	6	1		1	
			ウ	7	1		1	
			エ	8	1		1	
3	1		9	1			3	
		2	10	2			3	
		3	11	2			3	
4	1		12	5			3	
		2	13	2			3	
		3	14	5			3	
		4	ア	15	1		1	
			イ	16	1		1	
			ウ	17	-		1	
			エ	18	1		1	
		5		19	4		2	
	5	1		20	5			6
		2	A	21	1		6	完全解答
			B	22	3			完全解答
		3	ア	23	5		2	
			イ	24	1		2	
			ウ	25	6		2	
			エ	26	4		2	
6	1		27	4			5	
		2	28	6			5	
7	1	ア	29	4			6	
		イ	30	2			6	
		ウ	31	1			6	
		エ	32	3			6	
		2		33	6			6